夢洲の液状化と大阪 IR カジノ誘致

写真のように大阪日日 25 日 1 面に「大阪 IR 液状化なお課題」と大きな見出し記事。共同通信配信と思うが、関心のあるテーマなので抜粋して紹介する。

大阪IR 液状化なお課題
防災対策で認定審査影響も
松井市長釈明 見立て修正示唆
「調査精度低かった

大阪府と大阪市が 28 日までに国に認定申請する IR の区域整備計画は、人工島・夢洲の液状化対策を事業実現に向けた主な課題と位置付けた。放置すれば巨大地震などで人命に被害を与える恐れがあるため、市は巨額の対策費の負担を決定。防災対策は国の審査項目に含まれており、認定判断の重要な要素になりそうだ。

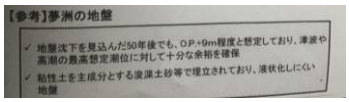
区域整備計画では、IR 開業目標を「2029 年秋から冬ごろ」としているが、液状化対策を「スケジュール遅延のリスク」の一つに挙げた。国の IR 整備のための基本方針は、防災対策を適切に講じるよう求めているため、市は約 410 億円を負担して液状化対策工事をし、事業者側に土地を引き渡す予定だ。

そもそも市は夢洲に関して「粘性土を主成分とするしゅんせつ土砂等で埋め立てされており液状化しにくい」との見解を少なくとも 1995 年以降、議会答弁などで繰り返してきた。市によると、埋め立て時に砂粒などが混ざったことが要因とみられる。松井市長は「これまでやってきたボーリング調査は非常に精度が低かった」と釈明。南海トラフ巨大地震を想定した府の液状化予測に基づき IR 区域の多くを「(液状化が)極めて発生しにくい」としていた見立てを修正する可能性も示唆している。

写真下は「南海トラフ巨大地震を想定し、大阪府が公表している大阪市の人工島・夢洲の液状化予測。色が濃くなるほど液状化の危険度が高い（府のホームページから)。

注目すべき記事ではあるが、気になることを 2 点だけ指摘おきたい。第 1 に、市が約 410 億円を負担して液状化対策工事を実施し、事業者側に土地を引き渡す予定とある。2 月 15 日に大阪府・市と大阪 1R 株式会社との間で締結された基本協定書によると、液状化対策などは会社が「自ら実施するものとし」とされているが、これと違った情報なのであろうか。市議会などでの提案と審議にも関わる問題である。

第 2 に、夢洲が「液状化しにくい」との見解は議会答弁だけでなく、2019 年 12 月に公表された大阪 IR 基本構想で写真のように明確に書かれている。IR 基本構想に反する事態が判明したわけで、議会との関係からも本来なら誘致申請を取り下げるべきなのだ。


【参考】夢洲の地盤
✓ 地盤沈下を見込んだ50年後でも、O.P.+9m程度と想定しており、津波や高潮の最高想定潮位に対して十分な余裕を確保
✓ 粘性土を主成分とする浚渫土砂等で埋立されており、液状化しにくい地盤

記事では IR カジノ区域の液状化に言及しているが、隣接の大阪・関西万博の会場予定地は大丈夫なのだろうか。大阪府の液状化予測によると、色が濃い液状化の危険度が高い区域も広がっている。夢洲 IR・万博用地を注視したい。

（2022 年 4 月 26 日）